

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
16101009	地域研究を基盤としたアフリカ型農村開発に関する総合的研究	掛谷 誠（京都大学・名誉教授）	A
<p>本研究は、東アフリカの乾燥疎開林地帯をフィールドとして、現場主義を尊重しながら地域の実態を把握し、住民参加型の地域農村の在来性のポテンシャルを踏まえた発展計画（「アフリカ型農村開発」）を構想し実践することを目指したものである。タンザニアとザンビアの調査地において 1990 年代以降グローバルな市場経済によりさらされるようになった農村社会の状況と農民の対応をよく把握したこと、それを基礎にテンベア（小旅行）、平準化機構、牛を持つ民族との共生などの、アフリカ的な特徴を踏まえつつ、「アフリカ型農村開発」のモデル化がなされていることは、積極的に評価すべきであり、アフリカ地域研究、開発研究だけでなく、開発援助の実践にもインパクトを持つ研究となっている。「重点実施地域の限定」などの中間評価への対応も、概ね適切に行われており、研究経費の使用状況も適切である。様々な分野の研究者が共同して地域研究を行い、その結果を総合して地域開発に応用できる理念を構築するという研究目的は、基本的に達成されている。ただし、調査地のアフリカの中での位置づけが鮮明ではないこと、成果として提示された「創発性」「創造的模倣」「外部要素の取り入れ」「平準化機構と外来要素の内在化」「在来性のポテンシャルと内発的発展」は、「アフリカ型」に固有なものというよりは一般的なものであり、何が「アフリカ型農村開発」なのかについては十全な回答が提示されてはいないこと、成果の発表数が多いが、英文の査読付学術誌に掲載された論文は少ないことなど、今後の研究の継続的展開の中で克服すべき課題が存在する。</p>			